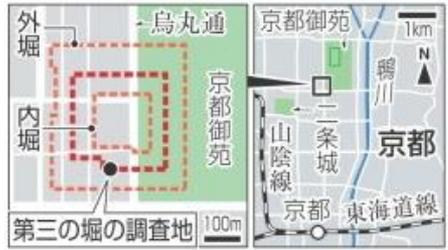


旧二条城に第三の堀

旧二条城跡から見つかった、足利義昭が造ったとみられる第三の堀は3月、京都市上京区



信長恐れた将軍義昭が造成

京都市上京区の旧二条城跡から、織田信長の攻撃を恐れた室町幕府の15代将軍足利義昭が造ったとみられる第三の堀が見つかり、神戸市の民間調査団体「古代文化調査会」が12日、発表した。

改めてフロイスの記録の正確さが裏付けられた。今回、既に存在が判明していた外堀と内堀の間から、幅約7メートルの新たな堀の一部が見つかった。堀は2段になっており、南側は深さ1・7メートル、北側は深さ3・4メートルだった。全体では東西、南北とも約250メートルの大

きさになるとみられる。信長は1569年、復権させた義昭のために旧二条城を短期間で造営した。しかし、権力の回復を目指し信長と対立した義昭は1573年、朝倉氏や武田氏らと信長討伐を共謀。信長の来襲に備えた義昭は、信長が造った二つの堀のほかに、新たな堀を設けた。信長が石仏などを二つの堀の石垣に用いたのに対し、義昭の堀に石垣はなかった。フロイスは「この城は三つの堀を備え、日本人にとっては落としがたい城だった」と伝えているが、信長軍に包囲された義昭は和睦を選択。後に京都から追放された。

① このたび、神戸市の民間調査団体「古代文化調査会」が発表した内容の要点を書きましょう。

② その第三の堀の幅や深さはどれくらいですか？

幅

深さ

南側

北側

③ この記事を読んだ感想を書きましょう。

学びポイント

- ・ 京都から追放された将軍義昭は、その後どこに行き、どうなったか調べましょう。